

【連絡先】

ご意見・ご要望がございましたら、
ご遠慮なくお寄せください。
連絡先 区役所控室
TEL3908-7146
FAX3905-7650
メールアドレス osawa@kita-jimin.jp
ホームページアドレス
http://www.kita-jimin.jp/osawa/

責任ある区政を推進

平成31年1月号

区議会自民党 活動レポート



北区議会議員 大沢 たかし

障害者に安心なまちづくり

赤羽駅から西が丘スポーツセンターまでの道路整備

北区は、11月28日の区議会建設委員会(大沢たかし委員長)に「ナショナルトレーニングセンター周辺のバリアフリー化促進」と題する報告書を提出しました。

それによると、西が丘の「ナショナルトレーニングセンター拡充棟(第2NTC)」が31年7月に供用開始の予定になっていることから、パラアスリート等が安心して利用できるよう第2NTC周辺のバリアフリー化の早急な整備が必要と求めています。

これが関連して、日本パラリンピアンズ協会が10月3日、同周辺の調査報告書を発表。これに基づいて「関係省庁連絡会議」が設置され、道路、交通等事業者の連携によりバリアフリー化等の促進を図ることを述べています。

日本パラリンピアンズ協会の主な報告内容は次のようです。

■視覚障害者が安全に渡れる信号機の設置/歩行者用の青信号点灯時間の最適化＝HPC地区周辺の5交差点のうち、4か所の信号機(都立赤羽商業高校交差点以外)は早期に改善が必要。特に国立スポーツセンター前の交差点は最優先に改善されることを要望する。

■ハイパフォーマンスセンター(HPC)周辺および駅からの動線における点字ブロックの設置、段差・溝など危険個所の解消＝HPC周辺の点字ブロックの設置を優先して行う。今回の調査で視覚障害者が壁面を伝って歩く場合、店舗入口等で切れ目があったり、自転車が置かれていることがあるなどHPC周辺道路には危険が多いことが明らかになった。

■赤羽駅のアクセシビリティの改善＝駅改札口の対応について、分かりやすい情報発信を依頼すること、HPCへ向かう複数のバス路線について、バスロータリーのどの停留所が最適なの

か、分かりやすい案内表示が必要。障害者のバス利用について、乗務員への理解と啓発教育をお願いしたい。

■こころのバリアフリーの普及啓発＝バスドライバーや地域住民への啓発＝ハード面の整備とあわせ、こころのバリアフリーについて、人々の意識を変え、行動変容を起こす効果的な方策について、デザイナーやクリエイターなどのコミュニケーションの専門家の知見を借りて、インクルーシブな社会に向けたメッセージが軽やかに伝わる新たな方法を模索したい。

■終わりに、先進的なまちづくりのショーケースとなるような整備を北区西が丘地区(ハイパフォーマンスセンター周辺)において実施し、すべての人がストレスなく移動でき暮らすことのできる社会のあり方を示してほしい。オリンピック・パラリンピックをめざす様々なアスリートが街を行き交い、応援する人たちと身近に接する機会が多いHPC周辺地区は、インクルーシブな社会の最前線となり得る潜在力を持つ。ここから得られるユニバーサルデザインのノウハウと、温かいコミュニティのあり方が全国へと広がり、2020年大会開催のレガシーの一つとなることに期待する。

◇

(注)第2NTC(ナショナルトレーニングセンター拡充棟)＝31年7月開業。地上6階、地下1階で、アーチェリー、水泳、卓球、射撃、フェンシングのほか、車いすバスケットボールやシッティングバレーボールなどの共用体育館を整備した。食堂や宿泊施設も完備される。



第2NTC完成イメージ図

30年度所属委員会及び会派役職

昭和36年3月生まれの57歳、赤羽台中(現桐ヶ丘中)、日大豊山高校、日本大学経済学部卒業、赤羽アボードI自治会副会長、マンション管理士、社会保険労務士

【現在】

- ・建設委員会委員長
- ・防災対策特別委員会委員
- ・政務調査会副会長
- ・北区都市計画審議会委員

ハンガリー選手が「事前キャンプ」

北区は11月26日、東京オリンピック・パラリンピック大会に参加するハンガリーの柔道とフェンシング両競技団体と「事前キャンプ実施に関する覚書」を締結しました。

北区には、味の素ナショナルトレーニングセンター(西が丘3丁目)と国立スポーツ科学センター(同)など、世界レベルのアスリートが集まる施設があり、区では「トップアスリートのまち・北区」を掲げ、東京五輪競技大会に向け様々な取り組みを推進しています。その中で、北区は国際競技連盟(IF)基準を満たしている施設に「区立赤羽体育館」(フェンシングと車イスフェンシング)と「区立滝野川体育館」(柔道)があることから、ハンガリーの選手団が両体育館で「事前キャンプ」の使用を北区に申し入れ、覚書を交わすことになりました。

この覚書にはハンガリーの柔道協会トート・ラスロ会長とフェンシング連盟ジョルト・チャンパ会長と花川区長が調印式に臨み、キャンプ実施中は、北区民の交流や子どもたちとの国際理解を深める考えを示しています。